

研究・調査報告書

報告書番号	担当
179	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol and drug use among patients presenting to an inner-city emergency department: a latent class analysis. 中心市街地にある救急センターを訪れた患者における飲酒と薬物使用の状況	
執筆者	
Blow FC, Walton MA, Barry KL, Murray RL, Cunningham RM, Massey LS, Chermack ST, Booth BM.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Addict Behav. 2011;36(8):793-800.	
キーワード	
救急、飲酒、薬物、物質使用障害、処方、アフリカ系アメリカ人	
要旨	
目的: 中心市街地にある救急センターは飲酒、薬物乱用、および物質使用障害のスクリーニングの機会となり、このような問題に対する治療を必要とする個人間の結びつきを促進する。今までは大部分が飲酒問題のみに焦点を当てていたが、物質使用/物質使用障害についてその特徴を調査する	
方法: 14557 人(男性 45%、アフリカ系アメリカ人 54%)を対象に、特性、健康状態、および物質使用障害を評価した	
結果: 外傷患者は有意に喫煙、飲酒、マリファナ、および飲酒使用障害の割合が高かったが、主訴は他の薬物使用/診断と関連はなかった。対象者の割合は、軽度物質使用障害者(65.9%)、重度飲酒者(24.3%)、マリファナ使用者(3.5%)、コカイン(2.9%)、および多種薬物使用者(3.3%)であった。軽度使用者と比較して、他の物質使用者では、若年で、男性が多く、医療保険未加入であり、精神機能が低下しており、喫煙率が高く、また物質使用に対する治療歴の割合が高かった。アフリカ系アメリカ人はマリファナ、コカイン使用者に含まれる割合が高く、労働者は重度飲酒者に多くみられた。軽度使用者と比較して、飲酒者、マリファナ使用者でより身体的健康状態がよく、飲酒者では外傷が多く、一方多種薬物使用者では医療的不満を訴える割合が高かった。	
結論: 救急センターでのスクリーニング、調査は、飲酒、不法薬物使用、抗精神薬使用が共存していることに焦点をあてる必要がある。	